



研究者名※	引土絵未	学位※	社会福祉学博士
所属※	人間社会学部 社会福祉学科	職名※	専任講師
連絡先	hikitsuchie@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/hikitsuchi		
研究分野※	社会福祉学		
研究キーワード※	精神保健福祉		
共同研究・競争的資金等の研究課題	令和2年度厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)「再犯防止推進計画における薬物依存症者の地域支援を推進するための政策研究」分担研究「薬物依存症者への就労支援のあり方に関する研究」 令和2年度依存症対策全国拠点機関設置運営事業における依存症に関する調査研究事業 分担研究「薬物依存症者の就労支援に関する研究」		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> 日本精神保健福祉士協会依存症および関連問題対策委員(2018年～) NPO法人八王子ダルク理事(2015年～) 一般社団法人プロジェクト・オンブレ・ジャパン理事(2019年～) 栃木ダルク主催家族教室「依存症本人の成長を助ける関わり」(2019年7月) さいたまさいたま市令和元年度自殺対策推進事業「地域支援研修」「自殺に傾いた人へのかかわり～「弱さ」へのまなざしからみえるもの～」(2019年7月) 2019年度鳥取県アルコール健康障害・薬物依存症支援拠点機関事業依存症研修会「エンパワメント・グループ」(2019年7月) 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部・治療共同体研究会主催「治療共同体エンカウンター・グループ研修」(2019年8月) 法務省保護局主催薬物依存対策研修「グループワーク」(2019年8月) さいたま市令和2年度自殺対策推進事業「地域支援研修」「自殺と依存症」さいたま市こころの健康センター(2020年10月) 2020年度同志社大学社会福祉学会研修会エンパワメント・グループワークショップ(2021年2月) 第1回治療共同体オンラインシンポジウム「アディクションTCとは」(2021年2月) 京都府2021年度大学生とアルコール関連問題の距離を縮めるバザールカフェプロジェクト(2021年9月) 治療共同体ネットワーク(https://www.tc-net.info/)主宰(2014年～) 		
受賞歴			

研究領域		(SDGs)
研究テーマ※	薬物依存症者の就労支援に関する研究	

<p>概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)</p>	<p>【研究の背景・目的・内容】 有益な雇用は依存症治療の成功要因の一つであることが指摘されているが、日本国内の依存症者の就労支援については先行研究もわずかな現状にある。本研究では、就労支援機関における依存症者利用についての実態と意識を明らかにすることを目的に、関東1都6県の就労支援機関(就労継続支援A・B型、就労移行支援事業所)4606施設とし、郵送法による自記式質問紙調査を実施し2353施設から回答を得た(回収率51.1%)。 その結果、依存症者が利用している施設は389施設16.5%であった。また、利用に懸念があるとの回答は、薬物83.2%、ギャンブル75.8%、アルコール75.1%と依存症者の利用への高い懸念が示された。懸念があると回答した人の割合について、アルコール、薬物、ギャンブルともに依存症者利用のない施設よりも利用のある施設で懸念が有意に低いことが示された。今回の調査では、懸念が低いために利用があるのか、利用があることで懸念が低くなるのか、これらの因果関係は明らかになっていないが、自由記述では、実際に依存症の方が利用することで、スタッフが知識や経験を得ているという記述が多数あり、実際の支援を通して懸念が低減していく側面が推察された。依存症者のイメージ(Linkスティグマ尺度を援用)について、アルコールでは利用のある施設において有意にスティグマが低いことが示唆されたが、薬物およびギャンブルでは有意差が認められず、薬物とギャンブルに対してはスティグマが根強いことが推察された。</p> <p>【応用例、研究の展望】 今後、就労支援機関に対し依存症の基本的理解と回復について理解を得ることが必要である。そこで、本人のための「依存症者の就労のワークブック」、支援者のための「依存症者の就労支援ガイド」を作成し、頒布予定である。また、依存症者の就労支援に関心のある方を対象とした「依存症者の就労支援研修」を開催予定である。</p> <p>【研究方法の特色】</p>
<p>本研究関連 特許・論文等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引土絵未「薬物依存症と就労支援」『臨床精神医学』48(11)、1285-1289、2019年 ・引土絵未「第10章物質をやめた後の情緒的つながりの回復のために」『物質使用障害の治療—多様なニーズに応える治療・回復支援』169-182、金剛出版、2020年
<p>共同研究・外部機関との連携への期待</p>	